

エッセンシャルワーカーの矜持を胸に

開催にあたって

本日は各地本、総支部、新幹線協議会、青年女性委員会の15名から代表質問をしていただきました。事前にいただいた意見書に対しては、すでに回答を皆さんへお返ししてありますので、確認いただいているものと思っております。事前にいただいた意見書以外で本日の発言に対しては、各部長から丁寧にご答弁させていただきます。感謝申し上げます。

コロナウイルスについて

先週は、社員の新型コロナウイルスの感染が判明し、濃厚接触者も一定数いました。この間、皆さんも様々な不安を抱えて日々業務にご精励いただいたことに改めて感謝申し上げます。本日の大会も書面形式で開催することを一時は考えましたが、ひとまず落ち着き



西日本旅客鉄道労働組合 中央 壇

を見せ、ギリギリであったのかもかもしれませんが、Live形式で開催することができました。

しかし、市中感染、感染経路不明の感染も広がっており、さらに会社からも感染防止に向けた通達も出され、私たち公共交通機関に働く者、エッセンシャルワーカーとして業務中は当然のことながら、業務外、プライベートを含め、自覚を持った行動が求められています。我々を含めて、皆さんの自覚を持った日々の行動を改めてお願いいたします。

新型コロナウイルスの社会的な影響はいつまで続くのか、全く不透明な状況にあります。ウイルスが消えてなくなることはあり得ませんので、私たちは共存していくなければなりません。そのう

えで、今後私たちは何をすべきのかを、何ができるのかを考えていく必要があると考えています。そして、今回のコロナ禍において、世の中の働き方や移動に対する考え方が大きく変容しました。テレワークや本日のようなオンライン形式の会議、採用活動においてもオンラインで面接をするなど、半年前には全く想像もしなかった世界に変化しました。ただ、このことは10年のスパンで見ると、いずれ訪れることだと想定していましたが、それがこの数か月で訪れたこととなります。まさに、想定外のことが起きたということになります。

会社の業績も年度初からの累計でみると、先週末時点で、対前年比較で4割にも到達していません。現在第2波と思われるような拡大状況にあることから、しばらくはこの低空飛行が続く可能性が懸念されます。事前にお配りした総括答弁では、今の状況からみれば少し楽観的な予測をしたと思っております。

安全について

安全の原点は言うまでもなく2005年4月25日の福知山線列車事故です。事故から15年が経過し、事故後入社した社員半数を超えるまでとなっています。私たちが行ってきた様々なアンケートを通じて、私たちの安全への意識が高まっていることは明らかとなっており、皆さんが日々安全を意識され業務をされていることは、これも証明されています。そして、鉄道業界の中でも安全に対しては、様々な取り組みを先進的に行っており、世の中に対しては自信を持っていいと思っております。しか

この低空飛行がしばらく続くとなれば、通期の業績はどのようになるのか、少し背筋の凍る思いがあります。そうは言っても前を向いて進んでいかなければなりません。それでは、安全、業務、組織など、今後の本部としての方針について、運動方針を補足する形で総括答弁をさせていただきます。

組織について

コロナ禍の中で行っていた加入行動については、本当にありがとございました。分会の役員をはじめ、本

当にご苦労いただいたとおもっております。重ねて感謝申し上げます。今年の新入社員は研修も在宅となるなど、不安の中、さらなる不安で新社会人をスタートさせています。現在は各職場に配属され頑張っていると思

いますが、皆さんの先輩としてのフォローを改めてお願いしておきたいと思っております。今回のコロナ禍において

はグループを含めて労働組合の存在意義が、改めて認識されたのではないかと考えています。労働組合の有無でこれまでの対応に、大きく差が出たのではないかと考えています。東日本では分裂を繰り返し、第1組合の東労組ですら7千人程度となり、力が分散し弱くなっています。その証左に夏のボーナスが昨年比で0.5か月減となり、2.4か月となり、私たちの数字を下回るというある意味衝撃的な結果となりました。

この組織の力を発揮し、これからの組合員の皆さんのために本部を先頭に頑張っていきたいと思っております。私たちの今後の活動についてですが、運動方針案で様々な取り組みを提起してまいります。今後の情勢で延期や中止と判断することもあると思っております。仮に実施する際は、感染リスクを下げるために三密を避け、マスクの着用、検温なども当然実施し、十分に注意、配慮した形で実施することとします。会議についても、内容によって集合形式とテレビ会議形式を併

用し、招集人数も必要最低限とするなど、その時の状況に応じて対応することとします。会社との今後の動きについても、本部本社間で情報交換を密にして、前広に皆さんへ伝えていきたいと思います。下期に向けては、様々な経費節減の動きが出てくることも予想されます。特に工事量については、大幅に減少すれば協力会社などのサブライチエーンへの影響が出てくること、容易に予想できませんから、グループ会社への資金援助を含め、そのようなことが生じないよう、グループ全体を見て、議論を進めてい

いたと思っております。事前の配布の総括に詳しく述べています。今年にはコロナシフトで交渉に臨みたいと考えています。冒頭にも述べましたが、コロナ禍において世の中の働き方が大きく変容しようとしています。私たちの会社も少なからずそれに追従していかなければなりません。一方で、今回の申入書の構成でも明らかのように、4月以降に休暇や育児、介護などの各種制度の条件を時限的に緩和しました。この中には、今後の働き方を見直すことで恒久化できるものがあると思っております。ひとつでも改善を図っていきたく思います。

協約、春闘、職場のあり方について

JR西労組としての大きな労使交渉である秋の労働協約改定交渉と来年春の春季生活闘争、そしてそれら全般にかかわる職場のあり方、定年延長を含む賃金昇進制度改正などについて少し触れておきたいと思っております。

労働協約改定交渉に向けた申入書の案についてはすでに配布しており見ていただ

いと思っております。冒頭に申し上げた通り、このまま低空飛行が続けば、再び一時休休という話も出てくる可能性があります。社長も雇用を守ると言っていますが、私たちが最後の最後まで雇用を守る。これは死守していきたいと思っております。皆さんのご理解もお願いいたします。

問われると思っております。いかなる状況になっても皆さんと一致団結して、この苦難に立ち向かい、乗り越えていきたいと思います。

短期間で訪れた社会変化に私たちが遅れることなく、しっかりと付いて行くために、先手、先手で様々な変革を進めていきたいと思います。皆さんの英知を結集すれば、必ず乗り越えることができます。中央本部が先頭に立ち、今年も取り組みを進めていきます。

JR西労組の強みは、すべての職場に業務に精通した組合員がいるということです。PDCAの特にチェック、提

進んでいるということなどが、さらに、JR東日本が言い出した、混雑時間帯を減らすために時間帯別の料金設定が実現すれば、ラッシュ時間帯という概念も、もしかしたら将来なくなるかもしれません。今後、これらに対応するために何をすべきなのか、どうするかについても会社としてしっかりと議論していきたいと思っております。

また、今回のテレワークなどを通じて、これまで当たり前と思っていたことが、当たり前ではないことに気づいた方もいらっしゃると思っております。それぞれの業務の中での変革も、これを機に行っていくべきではないと思っております。協約交渉が始まる8月中旬までにそのような気付きを、地本を通じて、本部へ上げていただきたいと思います。

春闘についても少しふれておきたいと思っております。今後の業績により春闘の闘いは大きく変わると思いますが、私たちの基本スタンスは「1円でも黒字であれば、その成

果配分を求める」ということと、成果配分については「短期間の成果ではなく中期的な視点に立ち、その成果配分を求める」ということです。現時点では本当にどうなるかわかりませんが、この基本スタンスに基づき、春闘方針を策定し、闘っていきたく思います。

冬の期末手当について、私たちはJRグループの中で唯一「年間臨給方式」を採用しています。この年間臨給方式の意義だけは、ここで強調しておきたいと思っております。

賃金昇進制度の見直しについては、本日の発言にもありましたが、制度改正を行うと会社は一定の持ち出しが発生します。今の状況では、その原資となるものがどこにもないということになっており、今後の進め方については、大会以降に会社と一度議論をしていきたいと考えています。現行制度の課題については、引き続き職場討議などを通じて、出していきたいと思

言機能をさらに磨き、今年度は「全組合員の総団結」の難局を乗り越え、安全を基礎に未来を切り拓こう」とこの1年間のメインスローガンとして、今回提起した運動方針の実践に努めていきたいと思います。大会構成員の皆様と全組合員のご協力とご支援を改めて要請します。

そのうえで、来年の第33回定期中央本部大会の準備地本につきましては、大阪地方本部準備の下で開催したいと思

以上、第32回定期中央本部の総括答弁とします。

最後に、悲観的なことばかり言っても仕方ありませんが、今後訪れる未知の世界に、いかに対応していくか、まさに、JR西労組の真価が

第33回 定期中央本部大会について

来年の中央本部大会については、現時点で例年通りの500人規模の来賓、代議員、傍聴者が集まる形で開催できるかはわかりませんが、私たちの基本スタイル

そのうえで、来年の第33回定期中央本部大会の準備地本につきましては、大阪地方本部準備の下で開催したいと思

以上、第32回定期中央本部の総括答弁とします。

最後に、悲観的なことばかり言っても仕方ありませんが、今後訪れる未知の世界に、いかに対応していくか、まさに、JR西労組の真価が

最後に、悲観的なことばかり言っても仕方ありませんが、今後訪れる未知の世界に、いかに対応していくか、まさに、JR西労組の真価が

最後に、悲観的なことばかり言っても仕方ありませんが、今後訪れる未知の世界に、いかに対応していくか、まさに、JR西労組の真価が